

科目名	現代中国政治論特講	担当者	ヤマモト 山本 タダシ 忠士	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	-------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	本講座は、現代中国政治の習得（一般目標 GIO）により、以下の能力を身につけることを目的とする。		
到達目標	<p>〔一般目標 (GIO)〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 世界諸国の歴史や政治、経済、文化、価値観、信条などの現状及び相互関係を総合的に理解し、国際社会が直面している問題の解決策を提案することができる。(A-2:4) 2. 仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報に基づく論理的、批判的な考察を通じて、課題に対して具体的な見解を示すとともに、その限界を認識することができる。(A-3:4) 3. 学習状況の自己分析に基づく評価を、今後の学に生かすことができる。(A-8:4) <p>〔行動目標 (SBOs)〕</p> <p>基本教材および参考図書等を参照し、以下の目標を達成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 中華人民共和国憲法と法体系や中国共産党の一元支配体制の実際を深く知るために、相互関係を説明できる。 2) 中国の近現代史の指導者の施政を比較（毛沢東・鄧小平・習近平）し、それぞれの時代の国民世論の形成に果たした役割を分析する。 3) 日中関係の将来を考察するために、研究会、テレビ、旅行等で現地事情を吸収する。 <p>〔学修時間〕</p> <p>一つのレポート作成に際し基本教材および参考文献等の読み込み等、準備学習時間は 45 時間以上／レポート 1 本を目安とする。(1 科目=45 時間×レポート 4 本=180 時間)</p>		
学修方法	<p>【アクティブラーニングの有無・学習媒体等】</p> <p>Manaba folio（レポート提出システム）を活用する。</p> <p>【学習方略 (LS)】</p> <p>レポート作成に際しては、テキストや参考図書等を参照するとともに、図書館等で中国関係の論文、新聞、雑誌等を検索し論点を整理し、担当教員と質疑・討論し作成する。</p>		
スケジュール	<p>レポートは、まず草案を提出し、その後に最終レポートを提出する 2 段階方式とする。</p> <p>*前期（教材 1）：課題レポート（1）の草稿提出は 7 月末日、課題レポート（2）の草稿は 8 月末日を目途に提出する。課題（1）、課題（2）の最終稿は、9 月 19 日までに提出する。</p> <p>*後期（教材 2）：課題レポート（1）の草稿は 11 月中旬、課題（2）は 12 月中旬までに提出する。最終稿は 2020 年 1 月 14 日までに提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80 %	1. レポートとしての形式が整って、読みやすいこと。 2. レポート内容が論理的で説得力があるかどうか。 3. 考え方に独自性があるかどうか。
	平常評価	20%	平常時のメール等でのやり取りの内容を評価。
履修者への要望	<ol style="list-style-type: none"> 1. 通信制大学院は、相互の顔が見えないところがあるので、受講生の確定した時点で、コミュニケーション方法について相談する。 2. 個別的に地方から上京された折でも、連絡があれば、懇親の機会を設けたい。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 浅野亮、川井悟著 教材名： 『近現代中国政治史』（ミネルヴァ書房 2012年） ISBN978-4-623-06100-6 3,800円＋税
	中国は不確実性を抱えながら「台頭」を続けている。本教材は近現代政治史という表題に見られるように、清末、中華民国、中華人民共和国という流れの中で中国の政治的な動きについて、時系列と事項別の二本だてでまとめられている。時系列的には1830～1939年の清朝末期から民国期までの政治体制、1931～45年までの抗日戦争期、1945～81年までの建国から改革開放まで、1982～2010年までの建国60周年までと4期にわけられている。事項別では政治、経済、社会を中心に、交通・通信制度の形成、国家アイデンティティと国民国家形成、現代中国の政治・社会変動、党・政・軍の三位一体の統治構造等について整理されている。
参考図書	加々美光行編 『中国内外政治と相互依存』（日本評論社 2008年）ISBN978-4-535-04841-6 4,200円＋税
履修上のポイント	新中国建国の揺籃期における毛沢東時代の政治プロセスさらに毛沢東時代と一線を画した鄧小平の改革開放の政治プロセス、江沢民以降の政治プロセス等、国家・党・軍隊という三位一体となった中国統治システムの特徴を把握すること。
レポート課題 1	レポート課題（1）：「毛沢東と鄧小平の政治プロセスの特徴について論述せよ」 留意点 ：毛沢東型社会主義一大躍進、文化大革命の意図と結果。鄧小平と改革開放政策とその後の中国の脱社会主義から資本主義への道。特に両者のリーダーシップ、目指す方向の相違点、同一点について留意する。
レポート課題 2	レポート課題（2） 「中国政治制度の中の共産党について」 留意点 ：党の指導性、党の機構と構成メンバー、党の政策決定メカニズム、党と国家の関係に留意。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： ① 川島博之著『データで読み解く—中国の未来』（東洋経済新報社、2015年） 教材名： ISBN ISBN978-4-492-44418-4、2,000円＋税
	21世紀の中国は、急速な経済成長によって政治的にも経済的にも大国となっているが、他方でその内部に抱える矛盾の大きさから、一部では近い将来の「崩壊」の危険すら観測されている。現在の中国が過去の歴史に深く規定されている以上、20世紀中国の歴史に対する洞察を深めることは、現在と将来の中国に対する理解と見通しを持つうえで不可欠の作業である。本教材は、米国政府の中国政策に深くかかわってきた著者の経験をもとに記述されており、その問題意識は中国理解を深める意味で示唆に富んでいる。日本と中国の関係は、経済的にも密接不可分な関係であり、中国の将来をどのように予測するかは日本の将来を左右するほどに大きな課題である。本テキストを参照し、自分なりの中国の未来予測に挑戦してほしいと思う。
参考図書	① マイケル・ピルズベリー著、野中香方子訳『China2049』（日経BP社 2015年） ISBN978-4-8222-5104-8、2,000円＋税 ② 川島真著『21世紀の「中華」 - 習近平中国と東アジア』（中央公論新社、2016年） ISBN978-4-12-004906-4、2,000円＋税
履修上のポイント	この100年の間に中国社会の矛盾・不平等克服のためにどのような取り組みがあったのか。教育大衆化の夢、学歴社会の誕生、改革開放政策は中国の格差を克服にどのような影響を与えたのか。データに基づき、中国脅威論は本当か、と疑問を投げかける。
レポート課題 1	レポート課題（1）：「中国は都市戸籍と農村戸籍の問題を解消できるか」 留意点 ：教材にある三つのシナリオを参照し、自分なりの未来予測をまとめる。
レポート課題 2	レポート課題（2）：「民主化は進むか—中国の民主的選挙の可能性」 留意点 ：これまでの中国の政治的発展を参考にして、自分なりの未来予測をする。